

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

進級・入学・入社…出会いは絶景

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



耕衣の流儀であった」というくだりがあります。なかなか怖い表現ですが、大いに共感しました。

春です。雪解けはうれしいのですが、花粉症の方にはつらい季節ですね。

私も花粉症に悩む一人で、本州にいる時はスギ花粉にやられ、「北海道にスギはない」と聞き楽しみにしていました。今が「聞き間違い」にやられていますが、今はシラカバ花粉にやられています。日頃あまり好きになれない人でも、同じ悩みを持つと知った後は、この時期だけの特例として仲良くなれます。

世は卒業、進級、入学、入社と何かと忙しい時期で、社会人には人事異動もあります。このところ、退職や転勤の報告を受けることが続きました。せつかく親しくなったのに残念ですが、栄転の方もいるし、新しい旅立ちなのだとなたも気持ちよく見送ろうと思っています。

意に沿わない辞令を受けて肩を落とす人には「人間関係の処青山あり」と励ましの言葉を掛けました。水に合う、合わないは、その水につからなければわからないのだから、新任地で頑張ってもらいましょう。もちろんこの欄の新しい担当者とも、気持ちよく付き合いたいと願う毎日です。

起業して満10年を迎えた2009年末に、多くの方に祝っていただいたことがあります。

す。この時、師と仰ぐある先輩から「出会いは絶景と云うが、いろいろな方が君を支えてくれているのだなと改めて感心した」という言葉を掛けていただきました。

出会いは絶景。とても心に響き、調べてみると、俳人永田耕衣がよく口にした言葉とわかりました。耕衣は兵庫・加古川生まれ。55歳の定年まで大企業に勤める一方、俳誌「琴座」を主宰し、90歳で現代俳句協会大賞を受賞し、97歳で他界しました。城山三郎著「部長の大晩年」に詳しく記されています。

この中に「無縁の衆生は深追いたない。いや、むしろ縁を断つ——それが早くからの

私には「終生よい友でいた」と思える人が10人います。逆に「許せん」と思う人間も10人います。許せんやつは金銀銅は鉄板で、他の入賞者は都度変化します。彼らとは自然に離れていきたいと願っている、ちよっかいを出す気ももめる気もさらさらありませんが……。

過日モノを捨てきれないと書きましたが、これからは人との関係にどう終止符を打つかが課題かもしれません。人は面白く、しかし悩ましい生き物です。私は到底97歳までは生きることができないと思いますが、どんな絶景に出会えるか、とても楽しみにしています。